

地元学調査を導入したことの中間総括と反省
(地方交通の見直しと地元学)

「地域力による脱温暖化と未来の街—桐生の構築」

プロジェクト代表・宝田恭之(群馬大学大学院工学研究科)

桐生—80

「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究開発領域平成21年度合宿
(12/3-4, 日本青年館ホテル)

桐生市の特徴

豊富な日照量



豊富な
森林資源
黒保根・梅
田地区

黒保根地区
森林資源

梅田地区
森林資源

水源豊富
桐生川、
渡良瀬川

織都
(西の西陣
東の桐生)

織物産業
遺産群



複数の鉄道

新里地区
農業・畜産

わたらせ渓谷
鐵道

上毛電鉄

JR両毛線

東武桐生線

桐生地区
商工業・文化遺産



大学の研究と地域の特性を活かした脱温暖化モデルの提案

全国的にも珍しい大規模飛地 ⇒ 都市部・山間農村部の協働モデル

暮らしやすいコンパクトな街づくり

グリーン交通システム※の導入によるコンパクトでエネルギー消費が少なく活力のある低炭素型の街作り

※ここでは徒歩、自転車、鉄道・バスなどの公共交通を効果的に結びつけた低CO2排出型の交通システムをいう。

公共交通利用促進WG⇒マイカー利用削減、公共交通の最適化、プラグイン自動車導入など

商店街再生WG⇒情報共有による魅力的街づくり

下支え

**低炭素型の街作りを下支えする経済基盤整備
＝グリーン交通システムを支える経済基盤の確立**

※織物伝統産業、産業遺産等観光資源、森林・水等自然資源

グリーン観光WG⇒公共交通利用観光の推進

地域資源活用WG

⇒地元産森林資源・交通インフラ整備

レンタサイクル+エコポイント導入WG ⇒徒歩や自転車利用がしやすい街づくり

2050年に向けたシナリオ

グリーン交通システムの構築

地元資源・観光の活用(経済基盤充実)

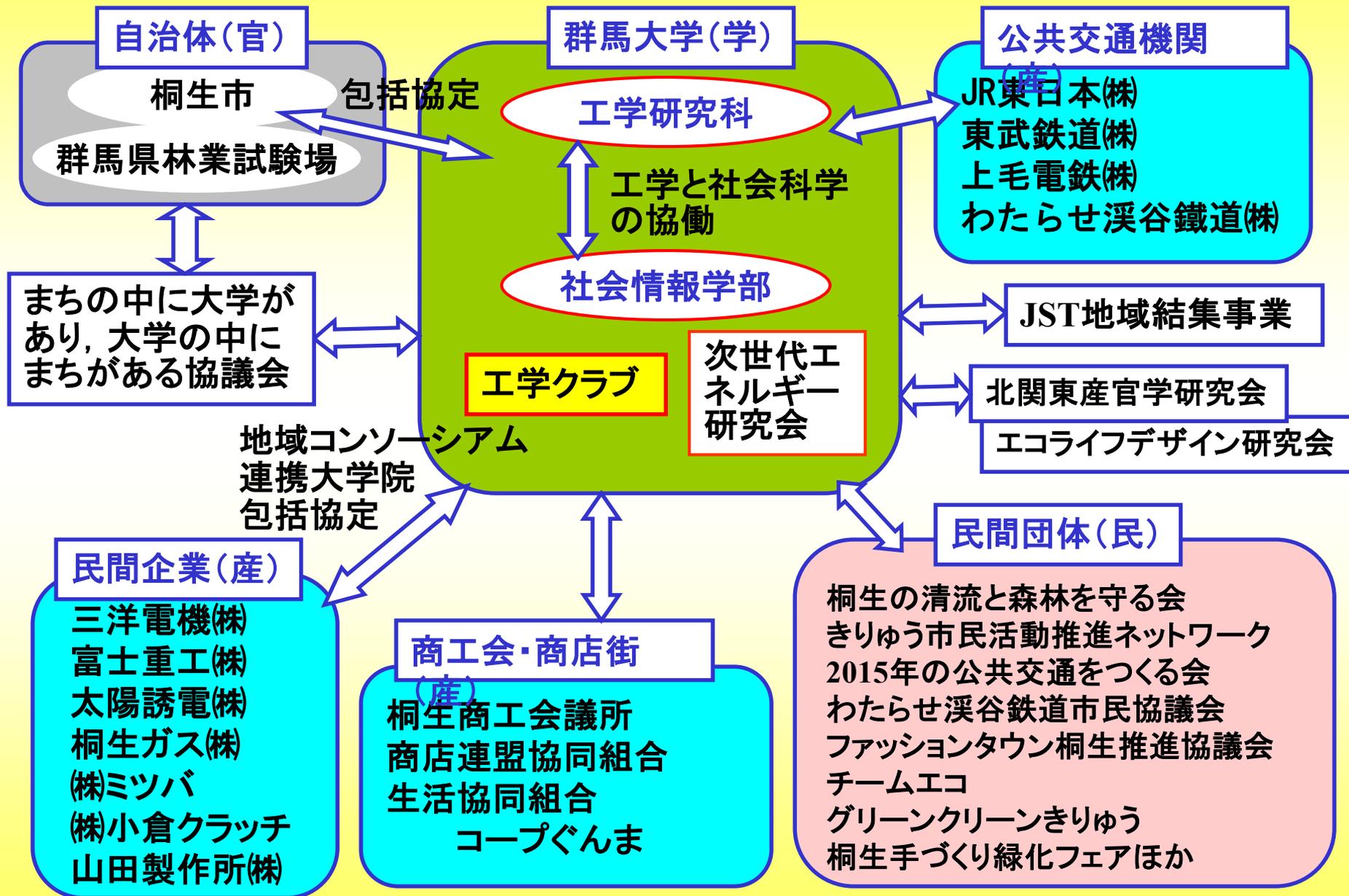
森林資源・自然エネルギーとプラグイン電気自動車との融合

CO2の80%削減達成

工学クラブ

長期的にCO2削減活動を担う子供たちへの環境教育、伝統文化の保存

研究開発プロジェクトの実施主体と連携



桐生市の現状と課題

車中心の生活

自家用車保有台数
2台 / 1世帯

郊外型ショッピング
モールの増加

鉄道・バス
利用車の減少

商店街
シャッター街化

高齢化⇒バスの
福祉交通化

地域コミュニ
ティーの衰退

地域鉄道・バ
スの存続危機

車中心の
高CO2排出社会

2050年までに自動車使用量1/10(1990)年比⇒16%
観光客の90%を公共交通利用へシフト⇒10%

プロジェクトが目指す低炭素交通システム

コミバス用充電基地
●太陽光発電 ●小水力発電

産業遺産・伝建地区

トランジットモールエリア
=街歩き観光エリア
(EV, 自転車, 徒歩優先地域)

上毛電鉄(サイクルトレイン)

コミバス経路
(観光エリアへの乗り入れ可)

わたらせ渓谷鐵道
(観光鐵道)

中心市街地=コンパクトで暮らしやすい街
(情報技術による活性化)

レンタサイクルでの観光

JR両毛線
(首都圏との接続)

東武鐵道 ●
(首都圏との接続)

来桐車用駐車場
(渡良瀬川河川敷, パークアンドライド)



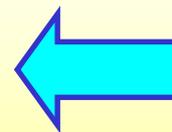
プロジェクト実施における課題

プロジェクト実施内容

- ◆公共交通の利用促進
- ◆地元資源を用いた交通インフラの整備
- ◆グリーン観光の推進(街歩き観光)
- ◆レンタサイクルの普及
- ◆コンパクトシティ形成のための商店街活性化(情報技術)
- ◆小型EV, コミバスの導入と活用

課題

- ◆地域の合意形成
- ◆技術の地域社会への実装
- ◆地域の協力者と地域主体形成



地元学
(吉本先生)

プロジェクト独自で行ったフィールドワーク



「桐生の玄関口で、どんな情報が得られるか？」の調査

地域資源の抽出作業



吉本先生の地元学

いきいきとした地域をつくるために、地域のもつ人と自然の力、文化や産業の力に気づき、引き出してゆく手法

- ①実践者からのレクチャー
- ②各自の動機付けをする(誰が, 何を, 何のために)
- ③調査地区の範囲を決定
- ④地元への説明
- ⑤スケジュール, 組織, 調査メンバーと費用の確保
- ⑥地元の案内人, 調べる人などのチームを編成
- ⑦作業場所の確保
- ⑧下見(高いところから地域全体を見る)
- ⑨調べることを選ぶ
- ⑩見て驚いたこと, 気づいたこと, あるもの探し
- ⑪写真撮影, 地域情報カードに書き込み
- ⑫絵地図にまとめる
- ⑬公開と活用

...

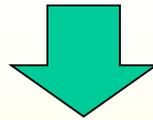
吉本哲郎先生, 「地元学をはじめよう」岩波ジュニア新書より

桐生における地元学

事前調査(3日間)

吉本先生らによる事前調査と講演会

- ① 桐生全域の事前調査
- ② 地元学に関する講演会
- ③ ビアンカ氏による講演「道は誰のもの」



本調査(3日間)

桐生市梅田地区(市街地の北部農村山間地域)

および上毛電鉄沿線で実施

朝顔と竹を楽しむ桐生がある



吉本先生の講演スライドより

桐生の音が 聞こえてくる



吉本先生の講演スライドより

絵地図の制作風景



地元学発表会の様子



桐生織塾と金沢の集落と自然神(山神)との関わり

この山
標高300m
其處最奥の
山神社
金沢の人々55
「父無きま」とDPの
おまつりに
石宮後の
巨木が「神体」
と云ふ!



登山コース
登りの看板
金沢には
石宮の跡が
あるといふ

意外に多くの田
集落の境界に
ありました



巨木の奥に「父無きま」



開
八幡神社
畑のおせ道を辿ら
なければ行けな
神社 見参道



イノシシ相殺用
ケージ
が道沿い金沢時と望む
絶景です!



←高祖の
大木
織塾
↓



どうにも刷毛新井軒



アジアの色々の
シャトル



織塾

物置にある
桐生織塾の入り口
日中織塾に使用される桐生織塾



織塾

桐生織塾



桐生の創作工房桐生
武蔵相模川に伝
新井東三郎が
製法を伝
へた



大木は高木
5mです。
22cm幅
です。

金沢の自然
と体

桐の並木
隠れ名所かも!



(1) 榎(高木)
新井東三郎が
おまつりに
あそびます

(2) 桐(高木)
新井東三郎が
おまつりに
あそびます

金沢の集落



三峯神社の
山道(須道)を
案内する石灯籠
三峯神社は金沢
織塾の入り口
桐生織塾の分地
三峯神社の分地



開兼宮神社
の山道



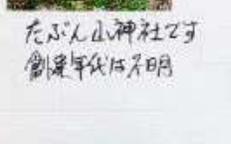
杉林 杉林に桐生織塾の
(杉と京都同じ)
杉林の中に得



たぶん山神社です
創建年代は不明



金沢を渡る山道
反対側は平地だけでした



山道です



石灯籠



調査員
石谷雄二



山道です



山道です

織塾では
桐生再建を南信中
主要地方道 桐生・田沼線

梅田
3大樹
の1本

三峯神社の
山道(須道)を
案内する石灯籠
三峯神社は金沢
織塾の入り口
桐生織塾の分地
三峯神社の分地

開兼宮神社

の山道

おまつりに
あそびます!!

地元学の記事 (桐生タイムス)

著作権保護のため削除

2009年10月8日

桐生タイムスに掲載

梅田地区学ぶ「地元学」参加者募集
JSTプロジェクト

梅田公民館周辺で「地元学」の調査

地元学の実施には・・・

地域の社会的構造の見極めが必要

地域の有力な協力者の発見が重要

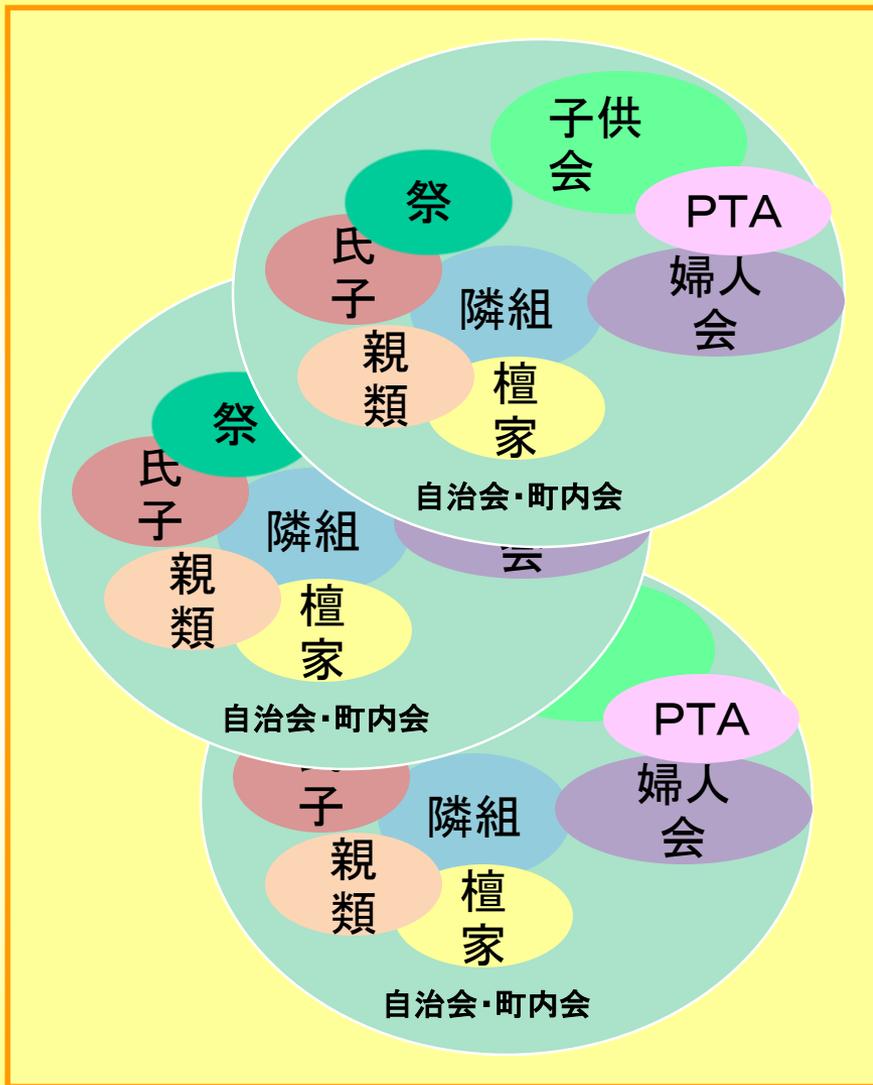
地域の気質の理解が必要

十分な事前調査と実施前の地域への協力依頼

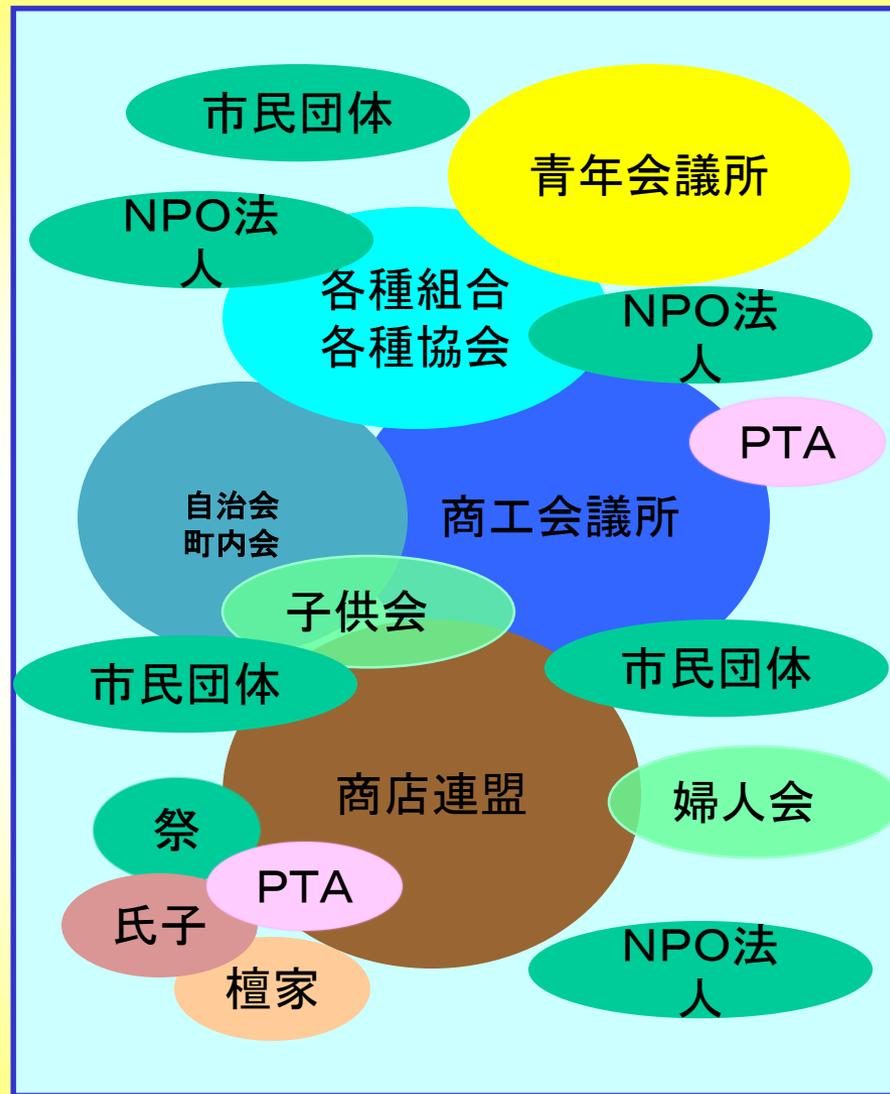
調査地域住民＋周辺住民・学生・行政担当者等の参加

地域への情報発信法の検討

地方都市の社会的構造

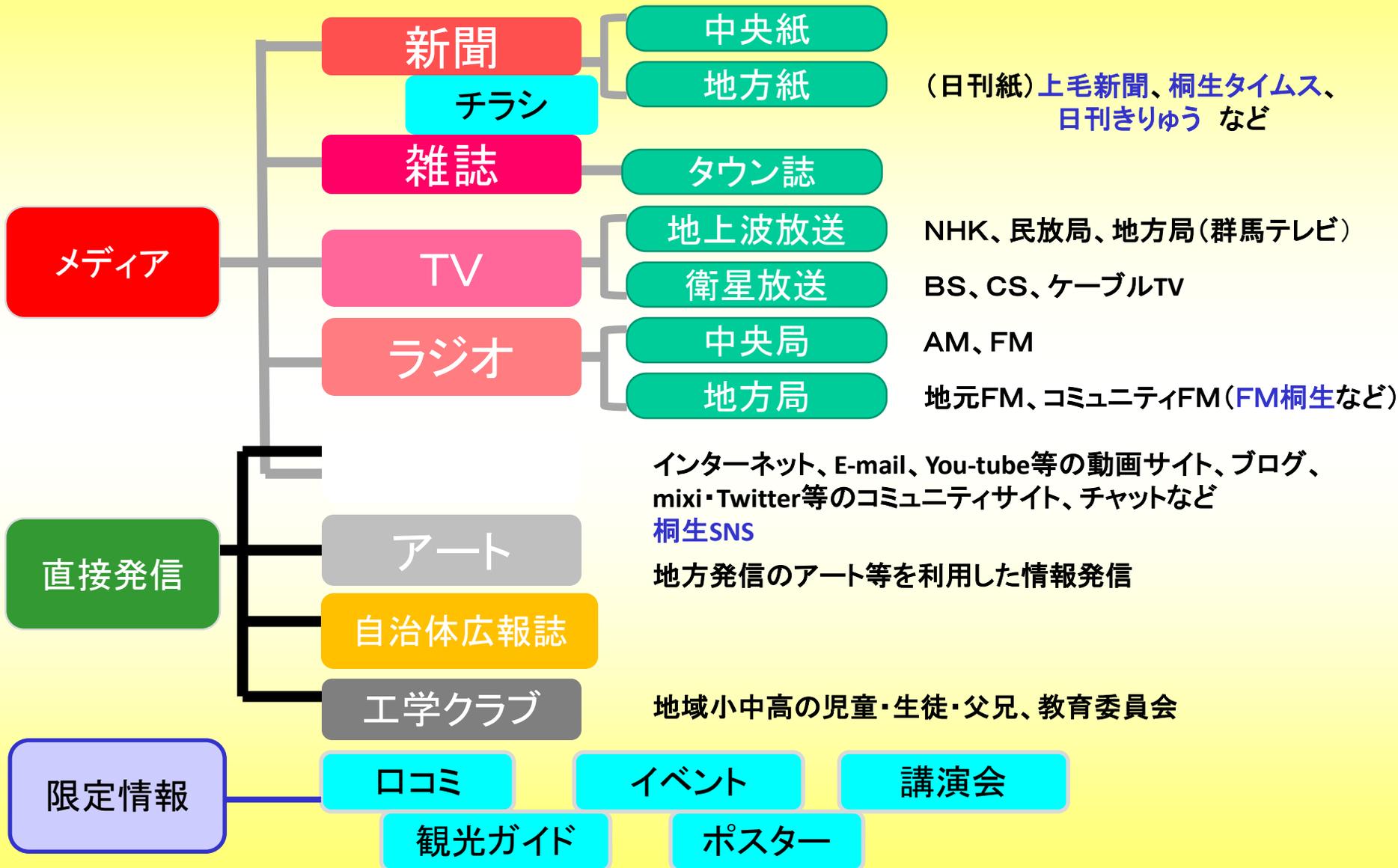


村, 山間部



中心市街地

地方都市における情報伝達の仕組み (合意形成のための情報発信)



まとめ

- ◎地方交通の見直しへの地元学の応用
わたらせ渓谷鉄道, 上毛電気鉄道
東武鉄道, JR両毛線, おりひめバス
各沿線での調査とそれに基づく見直しの提言



- ◎市民, 沿線住民の利用促進の仕組みづくり
(サイクルトレインを使った通勤実験など)
- ◎全国への情報発信
(公共交通観光=グリーン観光の推進)
- ◎公共交通を維持してゆくための仕掛けと主体形成
(魅力ある街づくり, レンタサイクルとの接続など)